

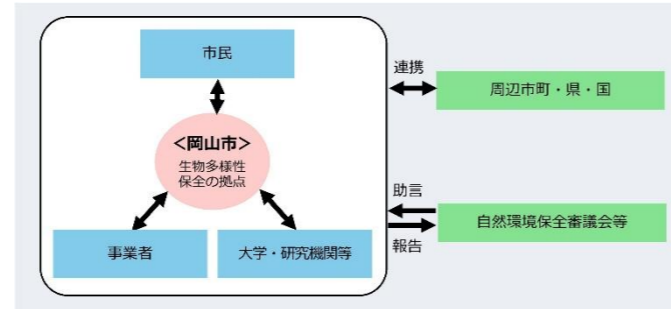
第5章 プランの推進体制と進行管理

1 各主体の役割

本プランの推進には、多様な主体が生物多様性の重要性を認識し、市民、事業者、岡山市が積極的に様々な取組を実施することが不可欠です。そして、これまで個々に活動を行っていた多様な主体が連携しながら計画的に実施していくことが求められています。

2 推進体制

市民・事業者・岡山市が相互に連携をはかりながら、市民・事業者・NPO・学校・専門家等の生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用に取り組む多様な主体と連携・協力し施策を推進します。



3 進行管理

本計画の実行性を担保するため、PDCAサイクル（P：Plan、D：Do、C：Check、A：Action）を基本とし、計画の目標の達成状況や取組の進捗状況の点検・評価を行います。

また、進捗状況や取組状況は環境白書等で毎年公表していきます。



4 指標設定による成果確認

基本戦略	指標	R6	R12	R17
基本戦略1 生物多様性を守る： 生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生	自然共生サイト認定地区数（地区）（環境保全課）	2	10	10
	身近な生きものの里認定地区数（地区）（環境保全課）	27	30	30
	自然保護地域におけるシンボル種の確認（%）※1（環境保全課）	97	100	100
基本戦略2 生物多様性を活かす： 自然を活用した地域づくり	環境保全型農業直接支払交付金取組面積（ha）（農林水産課）	97	139	未定
	市街化区域の緑被率（%）※2（庭園都市推進課）	11.1	9.4	11.1
	岡山産の野菜・果物等の購入を意識している市民の割合（%）（隔年調査）（農林水産課）	68（R5）	80	未定
基本戦略3 生物多様性を支える： 生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり	環境学習プログラム参加者数（人）（環境保全課）	52,713	70,000	未定
	住んでいる地域や岡山市の歴史・自然に関心がある子どもの割合の増加（%）（生涯学習課）	小 66.0 中 51.4	小 71.0 中 57.0	未定
	ESDプロジェクト参加団体数（団体）（SDGs・ESD推進課）	397	480	未定

※1：本指標における自然保護地域は、身近な生きものの里および自然共生サイトとします。

※2：緑被率は、衛星写真等で上空から見た際の緑（樹林、草地、農地、樹木、芝生等）に覆われている面積割合のことを言います。

発行元・連絡先

岡山市環境局環境部環境保全課

TEL：086-803-1284；FAX：086-803-1887；E-mail：kankyuhosen@city.okayama.jp

生物多様性おかやまプラン概要版



岡山市 令和8年3月

第1章 基本的事項

1 目的

国内外の動向等、本市の生物多様性をとりまく状況の変化を捉え、「ネイチャーポジティブ（自然再興）」や「30by30 目標」等の新しい考え方を取り入れた「生物多様性おかやまプラン」を策定することとしました。

2 位置づけ

生物多様性基本法第 13 条に定める生物多様性地域戦略として位置づけ、国の「生物多様性国家戦略 2023-2030」及び上位計画である「岡山市第七次総合計画」や岡山市の個別計画と本プランとの整合を図ります。

3 対象地域と期間

対象地域は岡山市全域とし、対象期間は令和 8 (2026)年度から令和 17(2035)年度の 10 年間とします。

第2章 岡山市の自然特性と生物多様性の課題

1 岡山市の自然特性

- 市域の中北部は吉備高原に連なる山地・丘陵部であり、中南部には谷底平野が形成されています。その南には近世以降の干拓地が広がり、さらに児島湾を囲んで、児島半島等の丘陵地域となっています。
- 岡山市では、8,121 種の野生生物が記録されており、「岡山県版レッドリスト 2025」（岡山県、2025 年）で絶滅危惧種として掲載されている種が 274 種確認されました。
- 岡山市内で絶滅危惧種が多く確認されている場所は、市街地の近くにもみられ、特定の場所に偏ることなく、市域の様々な場所に絶滅危惧種が多く生息しているという特徴が見られます。

2 岡山市の生物多様性保全の取組

- 身近な野生生物をシンボルとして、それぞれの地域の特性に応じた環境づくりを図ることができると認められる地域を、「身近な生きものの里」として認定しており、地域住民による保全活動を支援しています。
- 市域の重要な生態系を有する地域を選定した「岡山市の重要生態系リスト」には 99 の地域を掲載しており、今後、優先的に保全に努める対象となります。
- 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する「自然共生サイト」の認定地区の拡大に取り組みます。

3 生物多様性おかやまプランにおける地域区分

岡山市の自然や生物多様性の状況、人の活動や取組の状況を重ね合わせて、市域を大きく「里地里山エリア」と「低地・干拓地エリア」の 2 つに区分し、その他、特に市街化が進んでいる範囲を「市街地」として区分しました。

4 岡山市の生物多様性の課題

これまでの施策の進捗・効果を点検・評価するとともに、中高生・市民・事業者アンケート、ワークショップ、岡山市の自然特性の整理等を行い、市域全体の課題は次の 3 つに整理しました。

課題 1：豊かな生物多様性を保全するために、多様な自然環境を保全する必要がある

課題 2：持続可能な形で生態系サービスを楽しむための取組が必要である

課題 3：生物多様性の豊かな恵みを将来にわたって享受するための人材育成や仕組みづくりが必要である

第3章 めざすべき将来像と基本戦略

めざすべき姿

森、里、川、海、まちのつながりが生まれ、自然と人が共生する岡山

基本戦略 1 生物多様性を守る： 生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生

【状態目標 1】
生物多様性を育む水辺（水路、水辺のネットワーク）が保全され、維持・強化がなされている

【行動目標】 ● 水辺環境の保全を推進し、生物多様性の回復・創出を図る

【状態目標 2】
生物多様性を育む里地里山や緑地、農地の保全がなされている

【行動目標】 ● 森林、草地、耕作地の保全を推進し、生物多様性の回復・創出を図る

【状態目標 3】
生物多様性の回復・創出が進み、市域の生態系ネットワークが形成されている

【行動目標】 ● 野生生物の保護と適正管理を推進し、生物多様性の回復・創出を図る

【状態目標 4】
生物多様性を著しく損なう外来種対策が推進されている

【行動目標】 ● 外来種の適正管理と普及啓発を推進する

基本戦略 2 生物多様性を活かす： 自然を活用した地域づくり

【状態目標 1】
自然環境の機能を活用したインフラ整備が行われている

【行動目標】 ● 森林を適正に管理する
● 市街地の緑化推進と公園や緑道の維持管理を継続する

【状態目標 2】
持続可能な農林水産業の促進による地域づくりが進んでいる

【行動目標】 ● 環境に配慮した水産業を推進する
● 環境保全型農業を推進する

【状態目標 3】
身近な自然にふれあえる地域づくりが行われている

【行動目標】 ● 農作物に被害を生じさせる、有害鳥獣・外来種対策を推進する

【状態目標 3】
身近な自然にふれあえる地域づくりが行われている

【行動目標】 ● 自然とのふれあいの場の増加を図る

基本戦略 3 は、基本戦略 1、2 の施策の実現を支えます。

基本戦略 3 生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり

【状態目標 1】
生物多様性の恵みを意識したライフスタイルへの転換が進んでいる

【行動目標】 ● 自然環境に配慮した製品、サービスの利用を推進する

【状態目標 2】
生物多様性について正しく学び、実践する人が市域に増えている

【行動目標】 ● 自然環境に関する環境教育・環境学習の場と機会を提供する
● 生物多様性に係る人材を育成する

【状態目標 3】
生物多様性に関わる拠点があり、情報の収集・蓄積・活用がなされ、様々な主体との連携による事業が進んでいる

【行動目標】 ● 生物多様性情報の拠点となるプラットフォームを作成・活用する
● 様々な主体と連携した活動を推進する

第4章 行動計画

【重点プロジェクト1】
自然共生サイトの拡大と保全地区における生物多様性の質の維持向上

【重点プロジェクト4】
まちなかにおける生物多様性の保全と活用

【重点プロジェクト5】
生物多様性の保全を推進する拠点づくりによる自然共生社会の構築

【重点プロジェクト2】
里地里山における生物多様性の保全と活用

【重点プロジェクト3】
水辺における生物多様性の保全と活用